

プラント状況確認結果(平成29年10月24日～平成29年10月31日)

平成29年10月31日
福島県原子力安全対策課

平成29年10月24日～平成29年10月31日までの期間に、東京電力から福島第一原子力発電所1～4号機のプラント状況に関する報告内容について、県が確認した結果は次のとおりであり、前回の報告から大きな変動はありません。

[参考事項]

平成29年10月30日、東京電力より、6号機非常用ディーゼル発電機Aを定例試験のため起動したところ、回転数調整ができないため待機対象から除外したと報告を受けました。なお、5・6号機の非常用ディーゼル発電機は合計4台設置されており、他の3台が待機状態にあることから、運転上の制限は満足しています。今後、原因調査を行う予定です。詳細は[こちら](#)を御確認ください。

(1) プラント状況(10月31日午前5時)

場所	目的	監視項目	1号機	2号機	3号機	4号機 ^{※2}
原子炉 ^{※1} (核燃料)	冷却	注水量(m ³ /h)	2.9	2.9	2.8	—
		圧力容器 下部温度(°C)	22.7	29.1	28.6	—
	未臨界確認	キセノン135濃度 ^{※3} (Bq/cm ³)(A系)	1.01×10 ⁻³	検出限界値 未満	検出限界値 未満	—
圧力容器	水素爆発防止	窒素充填	充填中	充填中	充填中	—
格納容器		水素濃度 (体積%)(A系)	0.00	0.06	0.06	—
使用済燃料 プール	冷却	水温(°C)	22.6	22.2	33.3 ^{※4}	23.5

※1 直近データのみ記載。詳細は[東京電力のページ](#)を御覧ください。

※2 4号機は原子炉及び使用済燃料プールに核燃料が入っていないため冷却等は必要ない。

※3 実施計画に定める制限値は、1Bq/cm³以下である。

※4 3号機使用済燃料プールにおいて、10月16日より冷却を停止し10月30日に冷却を再開したため、他号機と比較して水温が高い状態になっています。なお、停止中の使用済燃料プールの温度上昇は事前の予測値と同程度と評価しております。

(2) 発電所敷地境界におけるモニタリングポストの測定結果(10月31日午前10時) 最小 0.495(MP-6)～最大 1.691(MP-4)μSv/h ⇒[計測地点の地図](#)

(3) 発電所専用港内の海水中セシウム137濃度の測定結果(10月29日採取分) 最小 1.1(物揚場前)～最大 7.1(1～4号機取水口内北側)Bq/L

(4) 発電所専用港外(沿岸)の海水中セシウム137濃度の測定結果(10月29日採取分) 5、6号機放水口から北側に30m: 1.7Bq/L 1～4号機放水口から南側に280m: 検出限界値未満 ※検出限界値は約0.58Bq/L

(5) 発電所敷地内の大気中セシウム137濃度の測定結果

※大気中の放射性セシウムについては、敷地境界に設置されている連続ダストモニタにより24時間連続での異常検知が可能であることから、可搬型ダストサンプラを

用いたガンマ核種分析については、平成29年8月30日をもって廃止となりました。敷地境界における連続ダストモニタの値はリアルタイムで公開されていますので、[こちら（東京電力HP）](#)を御覧ください。

(6) 1～6号機タービン建屋付近のサブドレン水中セシウム137濃度の測定結果(10月27日採取分)

最小 検出限界値未満 (3、4、5、6号機) ※各検出限界値は3.8、4.8、3.8、5.2 Bq/L
～ 最大 790 (1号機) Bq/L

(お問い合わせ 024-521-7255)